

## 2部2章 都道府県を調べよう

神奈川県 公立中学校教諭

### 1 何に注目して調べるか

都道府県を調べることは、取り上げる都道府県の地理的特色を見出し、そしてその地域的特色をとらえる視点と方法を身につけることが目的である。本書では、都道府県を調べる視点の例があげられている。1つの視点だけでなく関連のある視点を組み合わせ調べてくることが必要である。

### 2 山形県を例にして～農業を視点に～

#### (1) 山形県の概況を自分が住んでいる県と比較する。

統計資料を使って山形県の特徴を自分の住んでいる県と比べて、その特徴を明らかにすることができる。その際、帝国書院HPの地理統計は有効である。

帝国書院HPより

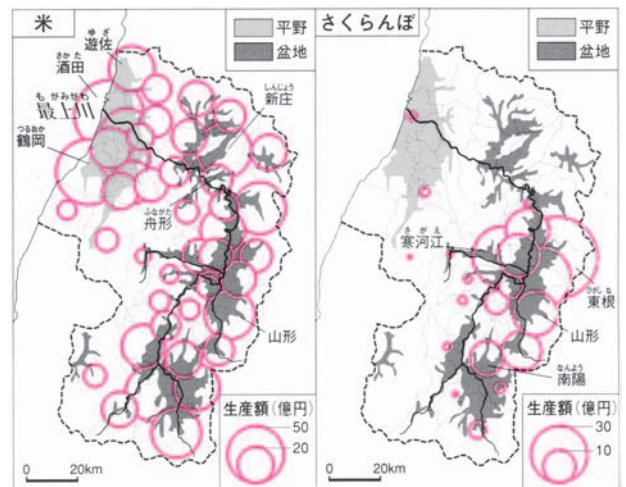
	神奈川県	山形県
面積(2004年)	2,415.85km <sup>2</sup>	9,323.39km <sup>2</sup>
人口密度(2005年)	3,639	130
人口(2005年)	8,790,900	1,216,116
第1次産業の割合(2000年)	1%	11.10%
第2次産業の割合(2000年)	27.70%	34.80%
第3次産業の割合(2000年)	71.20%	54.20%
人口増加率(1995～2000年)	3%	-1%
老年人口率(2005年)	16.50%	25.20%
農業産出額(2004年)	761億円	2140億円
工業産出額(2003年)	18兆8,586億円	2兆8,107億円

統計資料より作成

自分の住んでいる県を既習しているケースが多いので、山形県との比較をすることにより山形県の特徴をおおまかにつかむ。山形県の場合、農業産出額、第1次産業人口などから農業に視点を置いて調べていくことに注目しよう。

#### (2) 地域的特色を分布図よりさぐる

山形県の場合、農業を視点として、地域的特色をとらえるため、分布地図を効果的に活



「中学生の地理 初訂版」p.74

用したい。帝国書院HPの山形県により代表的な生産物として、米とさくらんぼを取り上げる。教科書p.74の市町村別生産額の地図を活用する。

### (3) 学習課題→予想→検証

米とさくらんぼの生産の地図により、分布している地域の特徴をつかみ、次のような学習課題を設定する。

#### ①学習課題の設定

##### 学習課題 例

米とさくらんぼ生産地域の理由を考えよう。

#### ②予想を立てる

<予想> 降水量・気温・風土

#### ③どんな資料が必要か、資料収集をする

<資料収集>

- ・山形県の自然状況



帝国書院HPより

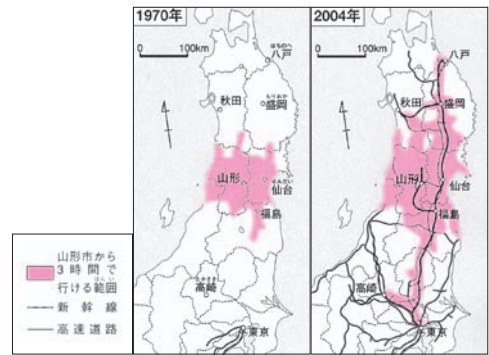
→最上川の流域や平野・盆地に米の産地、果樹の産地が見られる。

- ・米・さくらんぼの生育状況

→J A全農庄内HP、東根市HP

J A全農庄内HPには、「庄内平野の米づくり」のコーナーがあり、東根市HPには、「果樹王国ものがたり」としてさくらんぼづくりに関することがあり、資料として活用しやすい。

- ・交通網の発達→教科書p.76



「中学生の地理 初訂版」p.76 ④山形市から車か鉄道を使って3時間で行ける範囲の変化

農業と交通のかかわりについて本書では、観光とのかかわりで指摘している。

#### ④予想を検証する

<予想の検証…調べ、発表し、話し合う>

自然条件のみならず、他の条件がかかわり合っていることを検証していく。自分のまとめを発表する。発表で終わらせるのではなく、友だちの意見を聞いて自分の考えをきちんとまとめる必要がある。

#### ⑤調べたい課題を見つけ、調べる

<さらに調べる>

さらに調べる時間がとれれば、「米づくりの工夫」「さくらんぼづくりの工夫」「問題点」など自分で課題を見つけ、HPなどを利用しながらさらに調べていくと、意欲の向上につながり、他の都道府県調べへとつなげていくことができる。



## 3 神奈川県を例にして

### (1) 人口を視点として

神奈川県は、首都圏の一角に位置し、横浜、川崎を中心とする都市化、工業化が進んだ東部、緑豊かな西部、相模川を中心とした中部、海岸線が連なる湘南や三浦半島など、多様性に富んだ土地柄である。史跡も多く、歴史分野にもかかわりをもって取り上げていくこと

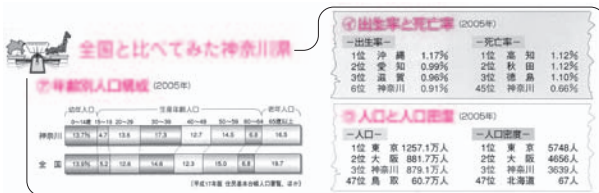
ができる県である。調べていく視点もそういう意味で、さまざまな点があげられるが、ここでは、人口を視点として、地域の結びつきを考えていく授業案を紹介したい。

そのさい、帝国書院版『県学習用神奈川県を調べよう』と帝国書院編『神奈川県版の地理資料・ワーク』の資料を有効に活用したい。

### ①導入の発問例

帝国書院編『神奈川県版の地理資料・ワーク』を活用する。

**発問1** 「全国と比べてみた神奈川県」で見ると、神奈川県の人々の特色はなんだろう。



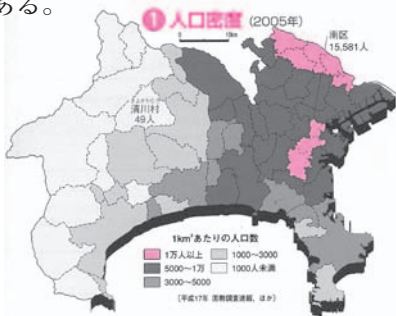
帝国書院編「神奈川県版の地理資料・ワーク」p. 6

**発問2** 人口密度からどんな特色があるのだろう。

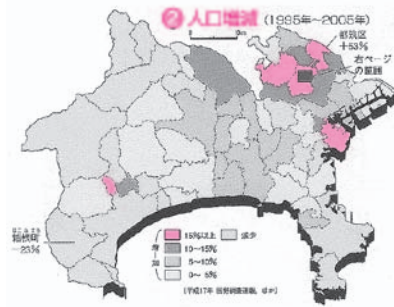
→ 東部に集中している

**発問3** 人口増減からどんな特色があるのだろう。

→ 横浜・川崎の中心部はむしろ増加率が低い。増加が著しいのは、中央部と北部である。



帝国書院編「神奈川県版の地理資料・ワーク」p. 6



帝国書院編「神奈川県版の地理資料・ワーク」p. 6

発問1では、神奈川県を全国における、人口の概況をつかんでほしい。

発問2、発問3では、分布地図より、その地理的特色を導き出すもので、学習課題につなげていく。



人口を視点とした地理的特色にどのような要素が関係しているのかを考えることにより、神奈川県を全国的特色をとらえてほしい。

### 学習課題の例

人口密度・人口増減には、どんな要素がかわっているのだろう。

### ②予想をたてる

<予想>

- ・地形との関係・産業との関係
- ・交通や東京との結びつきなど

### ③資料収集、検証する

地形との関係、工業との関係、交通や東京との結びつきなどの資料を地理資料から収集し、検証する。

そのさい帝国書院編『神奈川県版の地理資料・ワーク』の中にある神奈川県各市町村の統計を活用し、農業粗生産額、工業総出荷額、商業年間販売額の市町村別分布地図を生徒に作業させる方法もよいだろう。

・地形との関係

西部・中部・東部の地形と土地利用の変化から人口増減・人口密度の変化の関連を

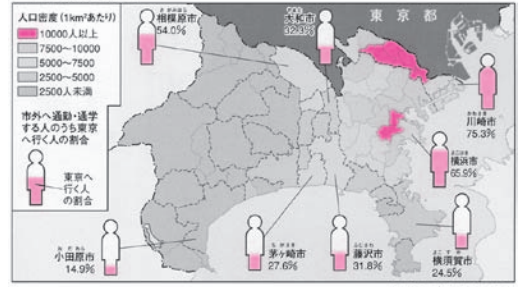
さぐる。



帝国書院版「県学習用神奈川県を調べよう」p. 2

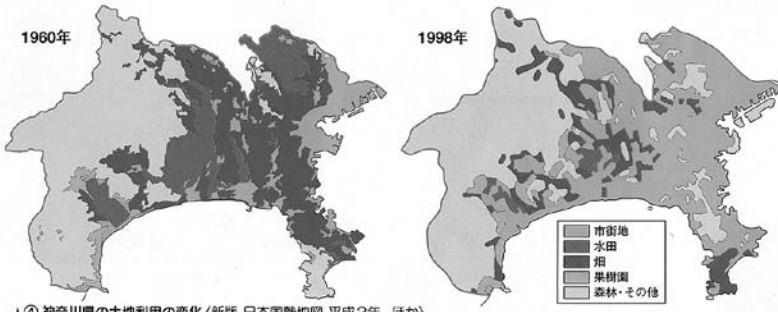
・東京とのむすびつき

↓②神奈川県の人口密度とおもな通勤・通学者にしろる東京へ行く人の割合



〔平成12年 国勢調査報告、ほか〕

「地理資料・ワーク 全国版」p.39



▲④ 神奈川県の土地利用の変化(新版 日本国勢地図 平成2年、ほか)

帝国書院版「県学習用神奈川県を調べよう」p. 7

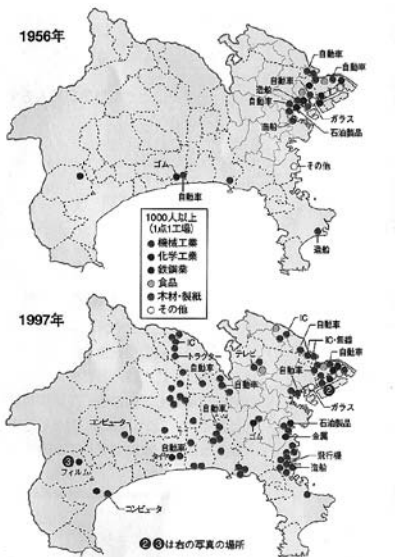
人口密度と東京への通勤・通学者との関係に交通網の発達が影響していることが導き出せる。

④発表し、話し合う

自分の検証した内容を発表する方法は、いくつかある。

・産業との結びつき

工場の分布の変化により、人口の増減、人口密度の分布とのかかわりを検証する。



▲① 1960年ごろと最近の工業地域の分布(全国工場選覧1996~97年版、ほか)

帝国書院版「県学習用神奈川県を調べよう」p. 8

グループでの発表は、なかなか自分の考えをいえない生徒には、よい方法といえる。話し合いの活動は、友だちの考えを聞き、自分の考えを再構築するために必要である。発表だけで終わることがないように、意見の交換の場を設定し、生徒が考えを深めていけるよう、教師も配慮する。

(2) 都道府県の学習のまとめ

まとめ作業として、さまざまな方法がある。人口以外の視点でも、帝国書院版『県学習用神奈川県を調べよう』の白地図を利用し、地理的特色を書きこんでいくこともできる。

(3) さらなる調べ学習

現在の授業時間数では、なかなか難しいが、さらなる疑問を解決することは、他の都道府県学習または、世界の国調べにもつながるだろう。帝国書院編『神奈川県版の地理資料・ワーク』の中の資料を有効に活用する

ことができる。

## 4 評価

### (1) 評価規準

都道府県学習における、評価の規準を以下のように考えて設定してみる。

#### 社会的事象への関心・意欲・態度

取り上げる都道府県の特徴ある地理的事象を見つけ、それらの事象について関心を高め、意欲的に調べ活動、話し合い活動に取り組んでいる。

#### 社会的思考・判断

取り上げる都道府県における地理的事象は、どのような環境の条件や人々の営みが要因となっているか、多面的多角的に追究し、考察している。

#### 資料活用の技能・表現

写真資料や統計資料など、取り上げる都道府県の資料を適切に収集し活用し、効果的にまとめている。

#### 社会的事象についての知識・理解

取り上げる都道府県の地理的事象をさまざまな視点で追求していくことにより、都道府県規模の地域の特徴をとらえる視点と方法を理解する。

### (2) 評価場面と支援

どんな場面、方法で評価をするか、見取るか、その状況によるところが多いと考えるが、一例として、あげてみたい。また、評価をしていくうえで、支援をどのようにしていくかは常にいっしょに考えていくべきである。

#### ①学習課題

学習課題を設定するために「知りたい」「なぜ？」という学習に対する疑問を大切にする。〔関心・意欲・態度〕を見取ることができる。

#### ②資料収集・活用

いくつかの資料から、学習課題に対する資料を適切に活用し、判断する力を評価する。まとめのワークシートの記述を中心に〔資料活用の技能・表現〕として見取ることができる。

#### ③予想の検証・まとめ

多くの条件がどのようにかわり合って地理的事象をつくっているかをワークシートに記述させることにより〔思考・判断〕として見取ることができる。

#### ④教師の支援

##### <予想場面>

自由な発想で予想させる。課題を解決していくうえで予想をすることは、考えを組み立てていくのに必要と思う。そのために予想をする場面を授業内に設定する必要がある。

##### <ワークシートへの教師のコメント>

生徒の書いたワークシートを必ず評価し教師がコメントを書くことにより、生徒が、自分の活動や考えを振り返ることができるようにする。

##### <各時間での目標の設定>

生徒が「何を評価されているのかわかる」ようにする。どんな力を身につけようとしているのかわかるようにしておく必要がある。

### (3) 評価とテスト

〔資料活用の技能〕〔思考・判断〕〔知識・理解〕の評価をする場合、適切なテスト問題を作成したい。多くの教師が、この問題に苦勞し、取り組んでいる。都道府県の学習では、その視点と方法を理解することが目的の一つであることから、知識だけを問うのではなく、調べ方を追究し、視点を問う問題を作成していかなければいけないだろう。